

「二」 次の五問(イ・ロ・ハ・ニ・ホ)から二問を選択し、また設問に答えなさい。解答は解答用紙に選択した問題番号を明記しなさい。漢字は常用漢字で表記してもよい。

イ 次の『史記』卷三〇平準書を読み、以下の問題①～③に答えなさい。

太史公曰：農工商交易之路通，而龜貝金錢刀布之幣興焉。所從來久遠，自高辛氏之前尚矣。靡得而記云。故書道唐虞之際，詩述殷周之世，安寧則長庠序，先本絀末，以禮義防于利。事變多故而亦反是。是以物盛則衰，時極而轉。一質一文，終始之變也。禹貢九州，各因其土地所宜，人民所多少而納職焉。湯武承獎易變，使民不倦，各兢兢所以爲治，而稍陵遲衰微。齊桓公用管仲之謀，通輕重之權，以徵山海之業，以朝諸侯，用區區之濟顯成霸名。魏用李兌，盡地力爲彊君。自是之後，天下爭於戰國，貴詐力而賤仁義，先富而後推讓。故庶人之富者或累巨萬，而貧者或不厭糟糠。有國彊者或并羣小以臣諸侯，而弱國或絕祀而滅世。以至於秦，卒并海內。虞夏之幣，金爲三品，或黃，或白，或赤，或錢，或布，或刀，或龜貝。及至秦，中一國之幣爲二，一曰黃金，以溢名，一曰爲上幣，銅錢識曰半兩，重如其文，爲下幣。而珠玉、龜貝、銀錫之屬，爲器飾寶藏，不爲幣。然各隨時而輕重無常。於是外攘夷狄，內興功業，海內之士力耕不足糧饌，女子紡績不足衣服。古者嘗竭天下之資財以奉其上，猶自以爲不足也。無異故云，事勢之流，相激使然，曷足怪焉。

問題① 下線部①を現代日本語に翻訳しなさい。

問題② 下線部②を現代日本語に翻訳しなさい。

問題③ 本文にもとづき、秦の貨幣制度について、一〇〇字以上で論じなさい。

ロ 次の史料の全文を現代日本語に訳しなさい(冒頭の「十載」は「天宝十載」)。
また、後の問いに答えなさい。

十載、林甫兼領安西大都護、朔方節度、俄兼單于副大都護。十一載、以朔方副使李獻忠叛、讓節度、舉安思順自代。國家武德、貞觀已來、蕃將如阿史那社爾、契苾何力、忠孝有才略、亦不專委大將之任、多以重臣領使以制之。開元中、張嘉貞、王晙、張說、蕭嵩、杜暹皆以節度使入知政事、林甫固位、志欲杜出將入相之源、嘗奏曰：「文士爲將、怯當矢石、不如用蕃族、蕃人、蕃人善戰有勇、蕃族即無黨援。」帝以爲然、乃用思順代林甫領使。自是高仙芝、哥舒翰皆專任大將、林甫利其不識文字、無入相由、然而祿山竟爲亂階、由專得大將之任故也。

〔問〕ここで述べられている体制は、太宗・貞觀四年に東突厥が崩壊したことを契機に形成された。その時の突厥遺民に対する唐の対処方針について、説明しなさい。

ハ 次の史料の全文を現代日本語に訳し、設問に答えよ。

戸部郎龍溪謝彬志其部事，論曰：商遷五都，不別置員。周營雒邑，惟命保釐。漢、唐舊邦，止設京尹。宋於西京，僅命留守。保釐、京兆，即今府尹是已。未聞兩都並建六卿如今日也。說者以爲京師者大衆之謂，物無兩大，權以一尊。故謂南吏部不與銓選，禮部不知貢舉，戸部無斂散之實，兵部無調遣之行，視古若爲冗員。嗚呼，是豈知國家之深計長慮哉！夫宮闕陵寢所在，六軍城守之事，府庫圖籍之所儲峙，東南財賦之所輻輳，雖設六卿以分理之，猶懼不給也，可以爲冗員而輕議之！善乎，丘文莊公有言：「天下財賦，出於東南，而金陵爲其會，戎馬盛於西北，而金臺爲其樞。並建兩京，所以宅中圖治，足食足兵，據形勢之要，而爲四方之極者也。」嗚呼，得之矣！考永樂十九年，始稱南京，洪熙元年去之，正統六年復稱南京，一時印信皆新鑄給，然龜鼎雖莫於北，神居終表於南。且水殿之舟楫猶供，陪京之省寺不改，所以維萬世之安，意固遠也。豈前代舊邦可得而並論哉！即丘公亦特舉其一端而言之耳。

【設問】 文中でも述べられる明代の政治・経済における北京・南京の位置づけについて、知るところを述べよ。

二 次の文章の傍線部(1)を現代語訳して、新羅の身分制度について説明しなさい。傍線部(2)を現代語訳して、その内容について歴史的な状況を説明しなさい。

新羅、弁韓苗裔也。居漢樂浪地、横千里、縦三千里、東拒長人、東南日本、西百濟、南瀕海、北高麗。而王居金城、環八里所、衛兵三千人。謂城爲侵牟羅、邑在內曰喙評、外曰邑勒。有喙評六、邑勒五十二。朝服尙白、好祠山神。八月望日、大宴賓官吏、射其建官、以親屬爲上、其族名第一骨、第二骨以自別。兄弟女、姑、姨、從姊妹、皆聘爲妻。王族爲第一骨、妻亦其族、生子皆爲第一骨、不娶第二骨女、雖娶、常爲妾媵。官有宰相、侍中、司農卿、太府令、凡十有七等、第二骨得爲之。事必與衆議、號「和伯」、一人異則罷。宰相家不絕祿、奴僮三千人、甲兵牛馬猪稱之。畜牧海中山、須食乃射。息穀米於人、償不滿、庸爲奴婢。王姓金、貴人姓朴、民無氏有名。食用柳杯若銅、瓦。元日相慶、是日拜日月神。男子褐袴。婦長襦、見人必跪、則以手据地爲恭。不粉黛、率美髮以纁首、以珠綵飾之。男子翦髮鬻、冒以黑巾。市皆婦女貿販。冬則作竈堂中、夏以食置冰上。畜無羊、少驢、羸多馬。馬雖高大、不善行。

③ 長人者、人類長三丈、鋸牙鉤爪、黑毛覆身、不火食、噬禽獸、或搏人以食、得婦人、以治衣服。其國連山數十里、有峽、固以鐵闔、號關門、新羅常屯弩士數千守之。

貞觀五年、獻女樂二。太宗曰、「比林邑獻鸚鵡、言思鄉、巧還、況於人乎？」付使者歸之。是歲、眞平死、無子、立女善德爲王、大臣乙祭柄國。詔贈眞平左光祿大夫、贈物段二百。九年、遣使者冊善德襲父封、國人號聖祖皇姑。十七年、爲高麗、百濟所攻、使者來乞師、亦會帝親伐高麗、詔率兵以披虜勢、善德使兵五萬人高麗南鄙、拔水口城以聞。二十一年、善德死、贈光祿大夫、而妹眞德襲王。明年、遣子文王及弟伊贊子春秋來朝、拜文王左武衛將軍、春秋特進。因請改章服、從中國制、內出珍服賜之。又詣國學觀釋奠、講論、帝賜所製晉書。辭歸、敕三品以上郊餞。

高宗永徽元年、攻百濟、破之、遣春秋子法敏入朝。眞德織錦爲頌以獻、曰、「巨唐開洪業、巍巍皇猷昌。止戈成大定、興文繼百王。統天崇雨施、治物體含章。深仁諧日月、撫運邁時康。幡旗旣赫赫、鉦鼓何鏗鏘。外夷違命者、翦覆被天殃。淳風凝幽顯、遐邇競呈祥。四時和玉燭、七耀巡萬方。維岳降宰輔、維帝任忠良。三五成一德、昭我唐家唐。」帝美其

ホ つぎの問題A、または問題Bのいずれかに答えなさい。

設問A

- (1) つぎの史料の全文を現代日本語訳しなさい
(2) 傍線部の「庫倫大臣」とはどのようなものか、説明しなさい。

恰克圖、我國與俄羅斯交界之所、庫倫大臣所轄也。庫倫、土謝汗地、商民皆居毳帳、大臣衙門壁瓦則皆以木。交易即在恰噶爾、設監督焉、彼亦遣人於恰噶爾總其事。以我之茶葉、大黃、磁、線等者易彼之哦噶紬、灰鼠、海龍等物。…〔中略〕…我之貨往、客商由張家口出票、至庫倫換票、到彼繳票。庫倫者、圈子之謂也。今有喇嘛圈子、圈內皆喇嘛、買賣圈子、圈內皆買賣人。客貨俱載以駱駝。俄羅斯人每以千里鏡窺之、見若干駝即知所載若干物。商未至前四五日已瞭然、蓋其鏡已見於三四百里外矣。子爵策侍衛楞言之。

設問B

- (1) つぎの文章の全文を日本語訳しなさい。
(2) 下線部の a conciliatory policy は、実際にどのような形をとって表れたと考えられるか、簡潔に述べなさい。

Prince Kung, after his experience in concluding the conventions of 1860 with Great Britain and France, appears to have wisely decided that the safety of his country depended upon a conciliatory policy as to Europeans, so long, at least, as China was weakened by open rebellions in more than half her provinces. In carrying out his plan of maintaining a consistently correct attitude toward all foreigners, there was no evidence of cordiality in his conduct, or of a conviction, like that of the Japanese under similar circumstances, that China might profit by assimilating certain elements of Western culture. Yet, even thus conditioned, he was the liberal partner in the executive, though rather a moderating than an active force. Had he possessed the political ability of his great ancestors Kang-hsi and Chien-lung, he might, perhaps, have converted the Empresses-Dowager to a policy that could well have saved his country the humiliations of 1895 and 1900.

二〇二二年度

早稲田大学大学院文学研究科

入学試験問題

【修士課程】

専門科目 東洋史学

コース

※解答は別紙

(縦・横書)

【二】 次の語句の中から二つを選び、それぞれについて説明しなさい。

上三旗

大刀会

トルキスタン総督府

中東路事件

『中州集』

戊戌の選試

匠戸

南坡の変

真興王

毗曇の乱

浦項中城里新羅碑

羅州伏岩里百濟木簡

北魏の部族解散

竇建徳

突騎施

『通典』

睡虎地秦簡

戸調制

碎葉鎮

塩鉄専売制

受験番号	
氏名	

この欄以外に受験番号氏名を書かないこと。

———ここから記入すること———

東洋史学

総 点

--

(次頁へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(次頁へ続く)

———ここから記入すること———

(次頁へ続く)

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——

(次頁へ続く)

「」から記入すること

——これより先の余白には絶対に記入しないこと——